

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(4/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
未来創造「新・ものづくり」特区 (静岡県浜松市)	3.7	4.0 進捗度 ・産地力の強化 171% ・企業立地による地域産業の振興及び雇用の拡大 91%	3.1 規制の特例等 ・市街化調整区域への企業立地に係る農振法・農地法のガイドラインの弾力的運用 地域独自の取組 ・国営三方原用水二期土地改良事業 ・耕作放棄地再生事業 ・市独自の企業立地促進事業 等	3.8	<p>・農業の産地力の強化は、当初(平成27年度)以来、一貫して減少しており、これは構造的なものと考えられる。農商工連携・6次産業化など取りうる施策を機動的に講じることが必要。</p> <p>・数値目標(1)－①「農畜産物販売額」が連続して減少している。部門別の変化などを含めた分析が必要。数値目標(1)－②「農業参入した企業による耕作面積増」については、さらに増加しており、目標見直しも視野に入れるべき。</p> <p>・企業の農業参入が進展しており、かなりの面積の農地を担うようになっている。農業経営をマーケットイン型に変えていくことが課題。</p> <p>・工業事業所立地に関しては、数値目標(2)－①「新規立地件数」は目標を下回っているが、大規模な拠点工場による用地の一括購入の結果であり、数値目標(2)－②「新規立地企業の売上高」は目標を大きく上回っている。工作機械の大型工場の進出が大きかった。また、売上高が目標を大きく上回っていることについては、大手企業1社の立地によるものか、他社も一定の増加があったのかなどの分析が望まれる。</p> <p>・雇用に関しても目標を下回っているものの、前年に比べて大幅な伸びを示しており、順調に進捗している。</p>